

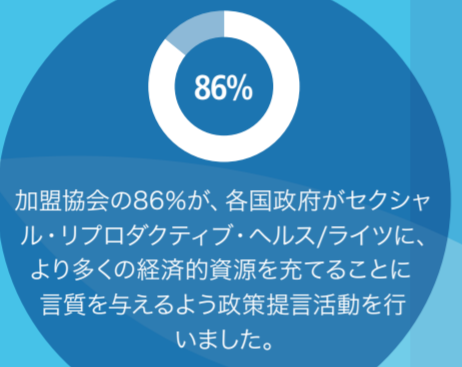
# 活動一覧 2007-08

2007年中の業績を提示する主要な事実と統計はグローバル・インディケーター・データを利用しています。

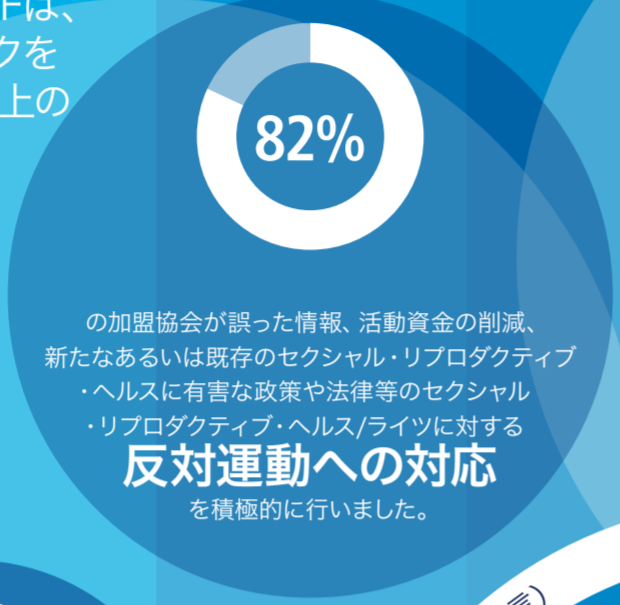
国際家族計画連盟 (IPPF) は、地球上に住むすべての人のためのセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの提供者・推進者です。IPPFは、世界に広がる152の加盟協会のネットワークを駆使してコミュニティのために働く3万人以上のスタッフと何百万人ものボランティアを支えています。



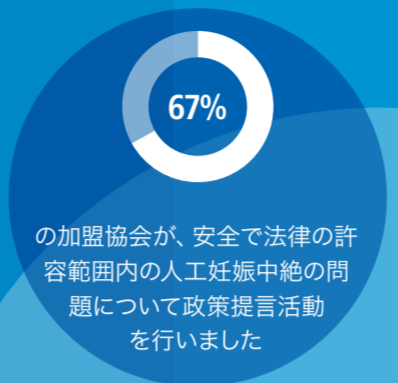
のIPPFのサービス利用者は、国連人間開発指数の低い諸国に住み、貧困で、社会に取り残され、社会的に阻害された、サービスを十分には受けられない人たちでした。



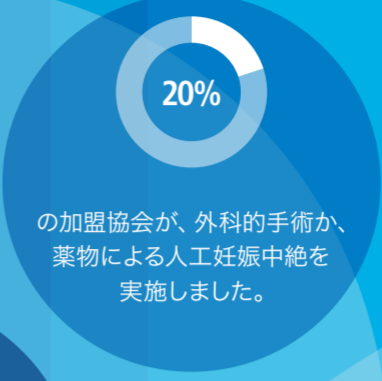
加盟協会の86%が、各国政府がセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに、より多くの経済的資源を充てることに言質を与えるよう政策提言活動を行いました。



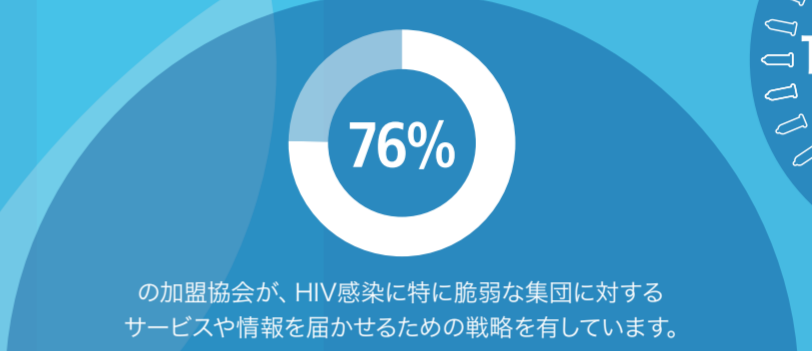
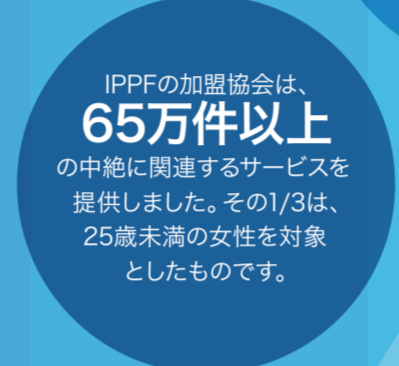
の加盟協会が誤った情報、活動資金の削減、新たなあるいは既存のセクシャル・リプロダクティブ・ヘルスに有害な政策や法律等のセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに対する**反対運動への対応**を積極的に行いました。



の加盟協会が、安全で法律の許容範囲内の人工妊娠中絶の問題について政策提言活動を行いました

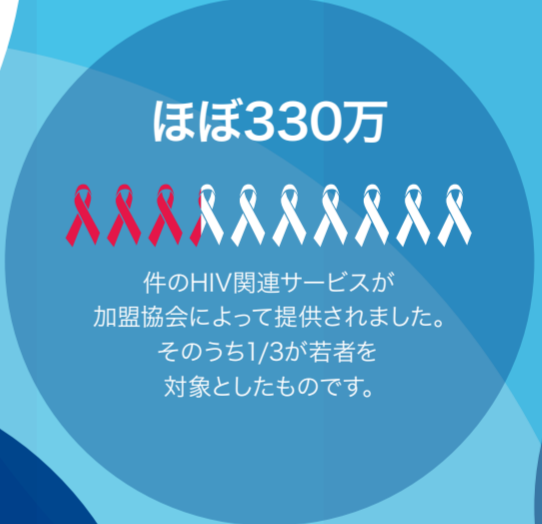
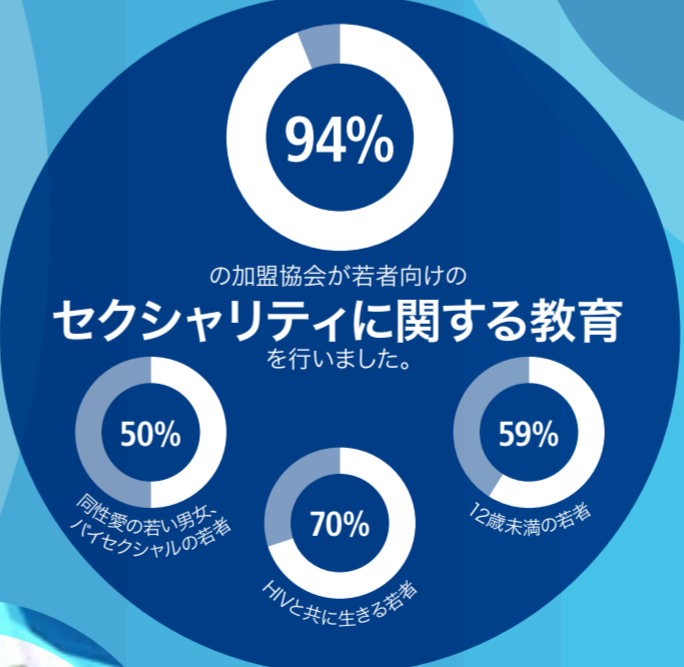


の加盟協会が、外科的手術か、薬物による人工妊娠中絶を実施しました。

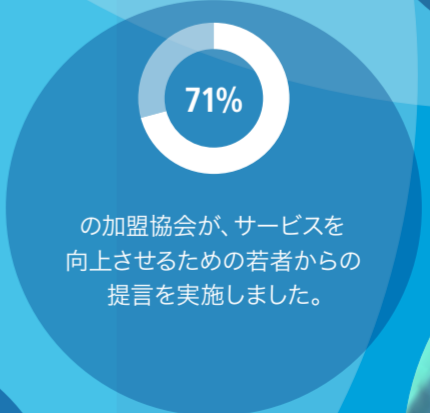


の加盟協会が、HIV感染に特に脆弱な集団に対するサービスや情報を届かせるための戦略を有しています。

62%	セックスワーカー
52%	同性愛やバイセクシャルとしての認識や自覚がある男性
52%	男性と性関係を持つ男性 (同性愛やバイセクシャルとしての自覚や認識はない)
41%	避難民
14%	注射による薬物利用者



国連人口基金 (UNFPA)、国連共同エイズ計画 (UNAIDS)、Young Positivesとの協力の下、少女や若い女性のHIV予防に関する**20カ国のレポートカード**を作成しました。現在、これらのカードは、人々の意識を高め、HIV予防イニシアティブを支援する政策提言用の手段として活用されています。



\*カップル・イヤー・オブ・プロテクションとは、一組の男女に供給された方法別の避妊を年数の総計として示すもの。

# 活動一覧 2007-08



## 地球規模の政策提言活動 (アドボカシー)

IPPFは、世界銀行の「保健医療・栄養・人口戦略」から家族計画が除去されたことに対する緊急対応を調整しました。加盟協会の草の根ネットワークを動員し、市民社会組織、政府、メディアと連携しながら、世界銀行がその戦略の中で、確実に家族計画を優先項目として再び挿入するようはたらきかける上で、中心的役割を果たしました。



## アメリカ家族計画連盟 (PPFA)

2007年中、アメリカ家族計画連盟は、政策を好ましい方向に変えるために草の根の動員、直接・間接的政策提言活動、州・連邦レベルで連合した活動を実施しました。成果には、4州で、包括的セクシャリティ教育へのアクセスが改善されたことや、5州で緊急避妊へのアクセスが拡大されたり、15州で家族計画へのファンドが回復・増大したこと、7州でMedicaidによる家族計画のカバー範囲が拡大したり、1州で避妊が医療保険カバーできるようになったことなどが含まれます。



## ドミニカ家族計画協会 (PROFAMILIA)

ドミニカ共和国では、同国のIPPF加盟協会であるPOFAMILIAがジェンダーに根ざした暴力に関する国家規準の策定に積極的に参加しました。PROFAMILIAが策定したサービス提供の手順は、これらの国家規準を策定する上での参考資料として活用されました。



## コロンビア家族計画協会 (PROFAMILIA)

コロンビアで国家保健医療安全委員会は、ホルモン避妊と男性用コンドームを初めて必須保健医療計画と保健医療補助金計画に含めました。コロンビアのIPPF加盟協会であるPROFAMILIAは、同委員会に直接的な技術支援を行いました。



## ポルトガル家族計画協会 (APF)

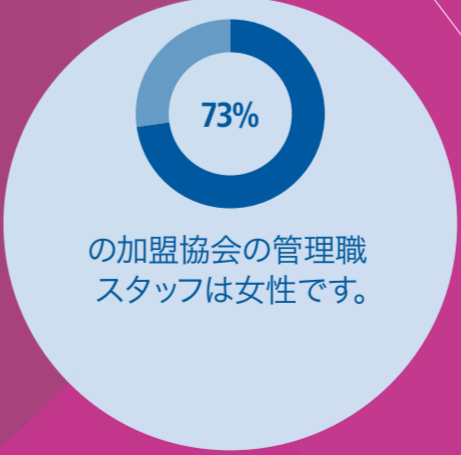
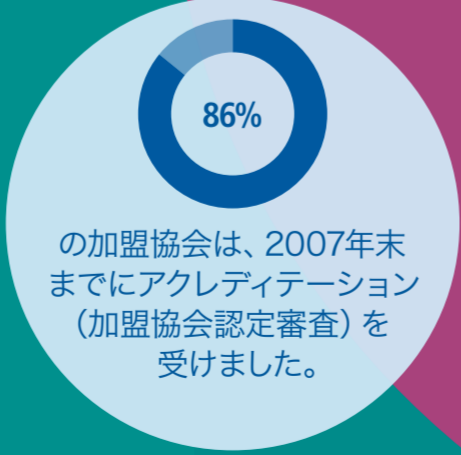
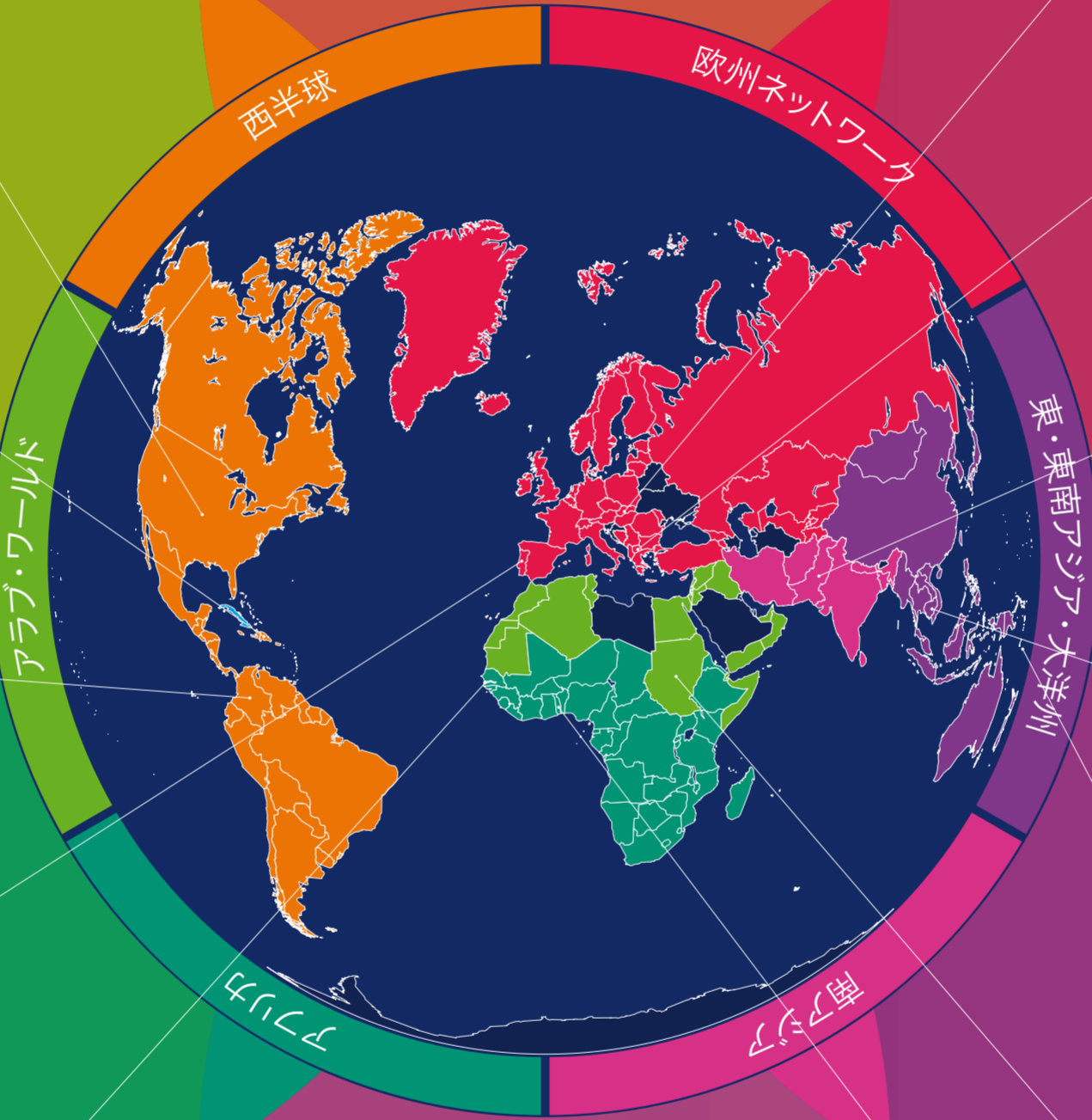
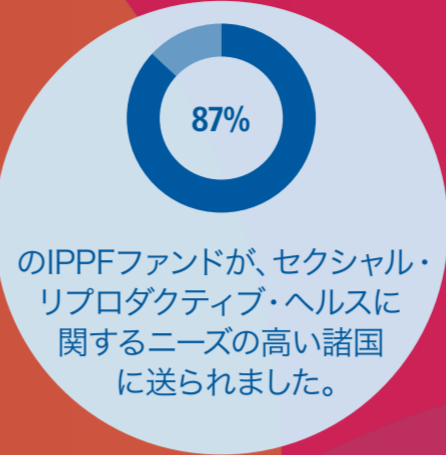
ポルトガルにおける中絶に関する法律を変更するよう永年はたらきかけてきた結果、2007年2月、全ての女性が妊娠10週目までなら人工妊娠中絶を求めることを認めるかについて国民投票が行われました。それまでポルトガルでは、レイプ、母親の健康への脅威、胎児の深刻な異常がある場合などに限って人工妊娠中絶が許されていました。国会で正式に承認されれば、この法律によって同国の安全でない中絶慣習が減ることになるでしょう。



## ガンビア家族計画協会 (GFPA)

ガンビア家族計画協会が、同国政府に対しはたらきかけた結果、必須医薬品リストの中に避妊具を含めることに成功しました。2007年に国会で条例が可決され、同国で初めて避妊具が必須医薬品として正式に認められるようになりました。

2007年中に、IPPFは  
**120.6百万米ドル**  
(前年度比12%増)  
を政府、財団、その他  
から受領しました。



「IPPFの活動は、世界中の最も貧しい女性、男性、そして若者の生活と健康を向上させる上で非常に重要です」

ジリアン・メロン議員、英国国際開発省政務次官



## スロヴァキア家族計画協会 (SPR)

スロヴァキア家族計画協会は、キリスト教民主党が2001年に申請した人工妊娠中絶の非合法化に反対するアドボカシー活動を行いました。2007年に憲法法廷は、妊娠初期3ヶ月間に女性の希望によって人工妊娠中絶をすることは、憲法に反しないという判断をくだしました。



## 保健医療教育・研究協会 (HERA)

旧ユーゴスラビア、マケドニア共和国のIPPF加盟協会は、若者の保健医療・発育に関する国家戦略、および15-24歳の若者のHIV感染予防的を絞った国家エイズ戦略の策定において活発な役割を果たすよう保健省に選ばれました。



## ラーヌマーバキスタン家族計画協会 (ラーヌマFPAP)

2007年にバキスタン家族計画協会は、国家保健医療政策課と保健省との連携パートナーシップを始めました。これに続き、リプロダクティブ・ヘルスに関する章が国家保健医療政策の中に初めて含まれることとなりました。



## カンボジアリプロダクティブ・ヘルス協会 (RHAC)

2007年12月、カンボジアの国会で、人身売買 (トラフィッキング) と性的搾取禁止に関する法案に関する議論が行われ、2008年1月に法律が通過しました。カンボジアのIPPF加盟協会であるRHACは、この法律の採択を強くはたらきかけた国家NGO連合の事務局メンバーです。



## ヴァヌアツ家族健康協会 (VFHA)

2007年までヴァヌアツには、HIVとエイズに関する国家政策は存在していませんでした。ヴァヌアツ家族健康協会が政策の導入をはたらきかけ、起草委員会に参加するよう招かれました。ついに政策は、2007年国際エイズデーに発表されました。



## スーダン家族計画協会 (SFPS)

スーダンのIPPF加盟協会は、HIVと共に生きる人々を保護するための新しい法律をつくりあげるプロセスに貢献しました。この法律は、無差別の権利、仕事とサービスを受ける権利についての主要となっています。



## トゴ家族計画協会 (ATBEF)

2007年に、トゴの加盟協会とそのパートナー組織によるアドボカシー活動の結果、セクシャル・リプロダクティブ・ヘルスに関する新しい法律が制定されました。この法律には、胎児の異常、親近相姦、レイプ、女性の生命や健康を危機にさらす場合には、トゴ女性に人工妊娠中絶する権利を与えることを明確にしている人工妊娠中絶に関する項も含まれています。